

2024 愛知医科大学 (数学再現) 2024/1/16 実施 80 分

(受験生の情報を元に作成していますので、表現等が正確でない可能性があります)

※第三者のチェックをしていないため誤りを含む場合があります。あくまで参考程度にしてください。

1

- (1) 2024 の正の約数の個数と総和を求めよ。
- (2) A, B の 2 人が勝負をして、先に 4 勝した方が勝ちとする。ただし、A, B どちらも勝つ確率は $\frac{1}{2}$ であるとする。
- (2-1) 4 試合目で勝敗が決まる確率を求めよ。
- (2-2) 6 試合目で勝敗が決まる確率を求めよ。
- (3) 平面上の 3 点を A, B, C とし、 $\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC} = \vec{0}$, $|\vec{OA}| = 4$, $|\vec{OB}| = 5$, $|\vec{OC}| = 6$ をみたしている。
- (3-1) 内積 $\vec{OA} \cdot \vec{OB}$ を求めよ。
- (3-2) 三角形 ABC の面積を求めよ。
- (4) a を正の定数とし、関数 $f(x)$ を $f(x) = \sqrt{x^2 + a} + \frac{1}{\sqrt{x^2 + a}}$ とする。
- (4-1) 導関数 $f'(x)$ を求めよ。
- (4-2) 関数 $f(x)$ が極大値をもつような定数 a の値の範囲を求めよ。
- (4-3) (4-2) のとき、 $f(x)$ の極大値と極小値を求めよ。

(1) $2024 = 2^3 \cdot 11 \cdot 23$ であるから、2024 の正の約数の個数は $(1+3) \cdot (1+1) \cdot (1+1) = \boxed{16}$ 個
また、それらの総和は $(1+2+2^2+2^3)(1+11)(1+23) = \boxed{4320}$

(2)(2-1) 4 試合目で勝敗が決まるのは、どちらかが 4 連勝する場合だから $2 \left(\frac{1}{2}\right)^4 = \boxed{\frac{1}{8}}$

(2-2) 6 試合目で A が勝つ場合を考える。

この場合、1 ~ 5 試合目までで A が 3 勝、B が 2 勝して 6 試合目で A が勝つときである。

$$\text{その確率は } {}_5C_3 \left(\frac{1}{2}\right)^5 \times \frac{1}{2} = \frac{5}{32}$$

$$\text{B が勝つ場合も同様であるから、求める確率は } 2 \times \frac{5}{32} = \boxed{\frac{5}{16}}$$

(3)(3-1) $\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC} = \vec{0}$ から

$$|\vec{OA} + \vec{OB}| = |-\vec{OC}|$$

両辺 2 乗して、

$$|\vec{OA}|^2 + 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + |\vec{OB}|^2 = |\vec{OC}|^2$$

$$16 + 2\vec{OA} \cdot \vec{OB} + 25 = 36 \quad \therefore \vec{OA} \cdot \vec{OB} = \boxed{-\frac{5}{2}}$$

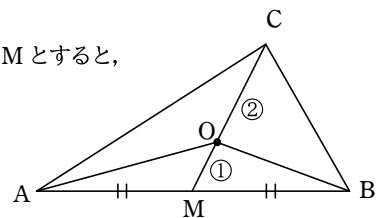
(3-2) $\vec{OC} = -2\left(\frac{\vec{OA} + \vec{OB}}{2}\right)$ であるから、直線 OC と直線 AB の交点を M とすると、

$$\vec{OC} = -2\vec{OM} \text{ であるから } OM : OC = 1 : 2$$

三角形 ABC の面積を S とすると、

$$(\triangle OAB) = \frac{1}{3}S, (\triangle OBC) = \frac{1}{2} \cdot \frac{2}{3}S = \frac{1}{3}S, (\triangle OCA) = \frac{1}{3}S$$

$$\text{であるから、} S = 3(\triangle OAB) = 3 \times \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OB}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OB})^2} = \boxed{\frac{45\sqrt{7}}{4}}$$



$$(4)(4-1) \quad f'(x) = \frac{x}{\sqrt{x^2+a}} - \frac{x}{(x^2+a)\sqrt{x^2+a}} = \frac{x(x^2+a-1)}{(x^2+a)\sqrt{x^2+a}}$$

(4-2) $a > 0$ であるから, $f'(x)$ の符号は分子の符号に一致する.

$a \geq 1$ とすると $f'(x)$ の符号は負から正へ変化するが, 正から負へとは変化しない.

$0 < a < 1$ のとき, $y = x(x^2 + a - 1)$ のグラフの概形は右のようになり,

$x = 0$ の前後で $f'(x)$ の符号が正から負へと変化している.

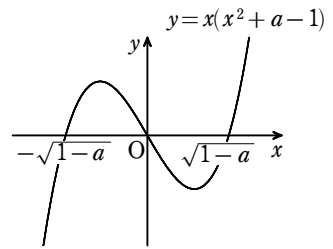
以上から求める条件は $\boxed{0 < a < 1}$

(4-3) $f(-x) = f(x)$ より $f(x)$ は偶関数である.

(4-2) から $f(x)$ は $x = 0$ で極大, $x = \pm\sqrt{1-a}$ で極小となるので,

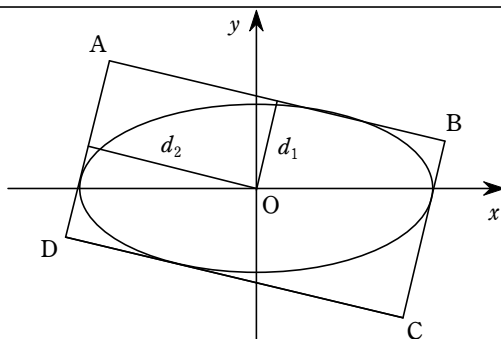
$$\text{極大値 } f(0) = \sqrt{a} + \frac{1}{\sqrt{a}} = \frac{a+1}{\sqrt{a}}$$

$$\text{極小値 } f(\pm\sqrt{1-a}) = \sqrt{(1-a)+a} + \frac{1}{\sqrt{(1-a)+a}} = \boxed{2}$$



座標平面上に楕円 $C: \frac{x^2}{4} + y^2 = 1$ があり、右図のように

長方形 $ABCD$ が C に接しているとする。直線 AB の方程式を $ax + by + c = 0$ とし、原点 O と直線 AB , AD との距離を d_1 , d_2 とする。



- (1) d_1, d_2 を求めよ。
- (2) 長方形 $ABCD$ の対角線の長さを求めよ。
- (3) 長方形 $ABCD$ の面積の最大値を求めよ。また、そのときの長方形の頂点を求めよ。

- (1) 長方形の各辺が座標軸と平行にならない場合を考える。

このとき、直線 AB は $y = mx + n$ とおける。この直線が楕円 C と接する条件は

$$x^2 + 4(mx + n)^2 = 4$$

$$(4m^2 + 1)x^2 + 8mnx + 4n^2 - 4 = 0 \dots (\ast)$$

が重解をもつことなので、

$$(4mn)^2 - (4m^2 + 1)(4n^2 - 4) = 0$$

$$\therefore 4m^2 - n^2 + 1 = 0$$

よって $n = \pm \sqrt{4m^2 + 1}$

したがって、直線 AB , CD の方程式は $y = mx \pm \sqrt{4m^2 + 1} \dots \textcircled{1}$

このとき、 $d_1 = \frac{\sqrt{4m^2 + 1}}{\sqrt{m^2 + 1}}$

また、直線 BC , AD は直線 AB に直交するので、直線 BC , CD の方程式は

$$\textcircled{1} \text{ で } m \text{ を } -\frac{1}{m} \text{ としたものであるから, } d_2 = \frac{\sqrt{4\left(-\frac{1}{m}\right)^2 + 1}}{\sqrt{\left(-\frac{1}{m}\right)^2 + 1}} = \frac{\sqrt{m^2 + 4}}{\sqrt{m^2 + 1}}$$

ここで直線 AB の傾きは $-\frac{a}{b}$ であるから、 $m = -\frac{a}{b}$ として

$$d_1 = \frac{\sqrt{4\left(-\frac{a}{b}\right)^2 + 1}}{\sqrt{\left(-\frac{a}{b}\right)^2 + 1}} = \sqrt{\frac{4a^2 + b^2}{a^2 + b^2}}, \quad d_2 = \frac{\sqrt{\left(-\frac{a}{b}\right)^2 + 4}}{\sqrt{\left(-\frac{a}{b}\right)^2 + 1}} = \sqrt{\frac{a^2 + 4b^2}{a^2 + b^2}}$$

長方形の各辺が座標軸と平行になる場合は、 $a = 0$ または $b = 0$ となるときである。

このとき、 $d_1 = 1, d_2 = 2$ となるが、上の d_1, d_2 で $a = 0, b = 0$ を代入したものに一致する。

$$\text{以上から, } \boxed{d_1 = \sqrt{\frac{4a^2 + b^2}{a^2 + b^2}}, \quad d_2 = \sqrt{\frac{a^2 + 4b^2}{a^2 + b^2}}}$$

$$(2) \quad AC = 2 \cdot OA = 2\sqrt{d_1^2 + d_2^2} = 2\sqrt{\left(\frac{4a^2 + b^2}{a^2 + b^2}\right) + \left(\frac{a^2 + 4b^2}{a^2 + b^2}\right)} = \boxed{2\sqrt{5}}$$

参考

長方形の各頂点は楕円 C の準円 $x^2 + y^2 = 5$ 上にあり、対角線 AC は準円の直径 $2\sqrt{5}$ に一致する。

(3) 長方形の面積 S は

$$S = 2d_1 \cdot 2d_2 = 4 \sqrt{\frac{4m^2 + 1}{m^2 + 1} \cdot \frac{m^2 + 4}{m^2 + 1}} = 4 \sqrt{\frac{4(m^2 + 1)^2 + 9m^2}{(m^2 + 1)^2}} = 4 \sqrt{4 + \frac{9m^2}{(m^2 + 1)^2}}$$

$f(m) = \frac{m^2}{(m^2 + 1)^2}$ とすると、 $f(m)$ は偶関数なので $m > 0$ で考えれば、相加平均・相乗平均の不等式から

$$f(m) = \frac{1}{\left(m + \frac{1}{m}\right)^2} \leq \frac{1}{4}$$

等号は $m = \frac{1}{m}$, つまり $m = 1$ のとき成り立つ。よって、 S は $m = 1$ のとき最大となるので最大値は **10**

このとき、長方形を作る4つの直線の方程式は $\begin{cases} y = x \pm \sqrt{5} \\ y = -x \pm \sqrt{5} \end{cases}$ であるから、長方形の各頂点の x 座標は

$$x \pm \sqrt{5} = -x \pm \sqrt{5}$$

$$2x = \pm\sqrt{5} \pm \sqrt{5} \text{ (複合任意)}$$

$$\therefore x = \sqrt{5}, 0, -\sqrt{5}, 0$$

したがって、 **$(\sqrt{5}, 0), (-\sqrt{5}, 0), (0, \sqrt{5}), (0, -\sqrt{5})$**

k を自然数とする. $-\sqrt{k} \leq x \leq \sqrt{k}$ をみたす整数 x の個数を a_k とし, $S_n = \sum_{k=1}^n a_k$ とする.

- (1) S_4 を求めよ.
 (2) $2\sqrt{k} - 1 < a_k \leq 2\sqrt{k} + 1$ を示せ.
 (3) 極限值 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n^{\frac{3}{2}}}$ を求めよ.

- (1) $k=1$ のとき, $-1 \leq x \leq 1$ に含まれる整数は3個 $\therefore a_1=3$
 $k=2$ のとき, $-\sqrt{2} \leq x \leq \sqrt{2}$ に含まれる整数は3個 $\therefore a_2=3$
 $k=3$ のとき, $-\sqrt{3} \leq x \leq \sqrt{3}$ に含まれる整数は3個 $\therefore a_3=3$
 $k=4$ のとき, $-2 \leq x \leq 2$ に含まれる整数は5個 $\therefore a_4=5$

以上から,

$$S_4 = 3 + 3 + 3 + 5 = \boxed{14}$$

- (2) \sqrt{k} を超えない最大の整数を $[\sqrt{k}]$ とする.

このとき, $a_k = 2[\sqrt{k}] + 1$ であり, $\sqrt{k} - 1 < [\sqrt{k}] \leq \sqrt{k}$ が成り立つから

$$2(\sqrt{k} - 1) < 2[\sqrt{k}] \leq 2\sqrt{k}$$

$$2\sqrt{k} - 1 < 2[\sqrt{k}] + 1 \leq 2\sqrt{k} + 1$$

$$\therefore 2\sqrt{k} - 1 < a_k \leq 2\sqrt{k} + 1 \dots (\ast)$$

- (3) (\ast) において $k=1, 2, \dots, n$ まで辺々足し合わせると

$$\sum_{k=1}^n (2\sqrt{k} - 1) < S_n \leq \sum_{k=1}^n (2\sqrt{k} + 1)$$

$$2 \sum_{k=1}^n \sqrt{k} - n < S_n \leq 2 \sum_{k=1}^n \sqrt{k} + n$$

辺々 $n^{\frac{3}{2}}$ で割ると,

$$2 \cdot \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{\frac{k}{n}} - \frac{1}{\sqrt{n}} < \frac{S_n}{n^{\frac{3}{2}}} \leq 2 \cdot \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{\frac{k}{n}} + \frac{1}{\sqrt{n}}$$

ここで,

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{\frac{k}{n}} = \int_0^1 \sqrt{x} dx = \left[\frac{2}{3} x^{\frac{3}{2}} \right]_0^1 = \frac{2}{3}$$

であるから, はさみうちの原理より

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{S_n}{n^{\frac{3}{2}}} = \boxed{\frac{4}{3}}$$